



UTO から世界へ！ 第30号

第19回先端科学技術分野学生国際会議 ICAST2024 (11/26~27) The 19th International Student Conference on Advanced Science and Technology (ICAST2024) in 台湾

ICASTとは、2008年に、熊本大学が、海外交流協定校の協力を得て始めた学生による学生のための国際会議です。これまで、熊本、北京、ソウル、イズミール(トルコ)、山東(中国)、クレルモンフェラン(フランス)、スラバヤ、マカッサル(インドネシア)、高雄(台湾)、マニラ(フィリピン)で開催されました。

今年度は台湾 国立台湾師範大学にて開催され、本校から高校2年生の稲生遥さんと大黒心結さんが参加し、英語で発表しました。

研究テーマ

- “Making the flower pots with Sludge”「五色山のヘドロで植木鉢を作る」(稲生)
- “Light and Shadow Created by an Object in an Aqueous Solution”「円形レンズの集光の謎」(大黒)



グループセッションでは、学生が発表する度に活発な質疑応答が行われました。専門性が高く、理解するのに難しい内容もありましたが、大学生の発表はどれも英語がとても流暢で聞きやすかったです。それぞれが研究してきたテーマを今後の展望を持って発表している様子に感銘を受けました。スライドの構成もとても優れたものでした。英語を使って活発に意見交流をしている場面を共有させてもらえたことは、本校の生徒達にとって貴重でかけがえのない体験になりました。本校生が果敢に質問をする場面もあり、もう少し長く研修を受けられたらよかったですと思いました。併せて、英語科としての課題や目当ても見つかりました。プレゼンの機会を増やすこと、発表の後はお互いの意見交換をすることなど、もっと積極的に授業計画を再考したいと思いました。また、理科や探究活動と英語とを融合した時間が必要だと思いました。(同行職員)

私は初めて英語で自分たちの研究を発表しました。とても緊張しましたが、質疑応答の時間に大学生のみなさんがたくさん質問してくださいました。一生懸命聞いてくださったので嬉しかったです。また、大学生の研究発表を聞くこともできたので、今後の研究に活かしていきたいです。(大黒)

全部英語での発表は私にとっては不安なことばかりでしたが、福島先生に助言をいただけて安心して発表することができました。たくさんの人達と関わる機会ができて、とても良い経験になりました。(稲生)



台北 101 で世界最速のエレベーターに乗りました。一瞬で上までついて驚きました!!台湾には可愛い雑貨がたくさんありました。タピオカも飲みました。美味しかったです。

